

今回のanimatoのテーマは、「ヒトモノオカネ」です。これらは活動を継続する上で欠かせないものですが、それらについて考える前に抑えるべきことを、NPO法人よこはま里山研究所の松村さんにうかがいました。

最近、NPOにもマネジメント思考が必要だという声を耳にします。予算規模の小さなNPOが多いので、特にファンドレイジング（資金調達）の力をつけるべきという意見は強く、多くのNPO自身も、そう思っているふしがあります。実際、こうした問題意識に対応するように、NPOへの中間支援策として、資金調達に関する講座・セミナーが頻繁に開催されています。ボランティアによって支えられる儲からないNPOよりも、企業的な経営センスのある若者が社会を変えようと立ち上げたNPOの方が、輝いて見える時代なのかもしれません。

もちろん、資金調達の手法は、知っている方がよいでしょう。しかし、組織の中で厳しい議論を重ね、苦勞して活動した経験がなければ、その有り難さを実感できないだろうと思います。私自身、NPOを運営するうえで、ほかのメンバーと何度も話し合いを重ねてきました。ときには、言いたくないことをあえて口に出してみたり、感情を押し殺して原理原則を貫いてみたりしながら、NPOとしての存在意義を確認し、運営方針を整理してきました。こうした経験は、組織のアイデンティティを確かなものにします。そうすれば、目的が何であり、どこへ向かって活動すべきかが定まり、

NPOの存在理由

松村 正治さん

NPO法人 よこはま里山研究所 (NORA) 理事長



チェルノブイリ原発事故などから環境問題に関心を持ち、環境コンサルタントになったものの、もっと身近な環境活動に関わりたいうようになり市内の里山保全活動に携わるようになる。2005年よりNORAの理事長。恵泉女学園人間環境学科准教授。

そのためにはいくらの活動資金が必要か計算できます。この段階になってはじめて、資金調達の手法が生かせるはずです。だから、NPO的なマネジメント手法を学ぶ前に、まずは仲間を集めて活動し、壁にぶち当たることを勧めたいと思います。

しかし、そもそも私はNPOを経営するにあたり、企業的なマネジメント思考からは距離を置いています。とりわけ、マネジメントの専門家がよく口にする「選択と集中」という言葉は好きにならないのです。NPOのもつ「人・もの・金・情報」を効率良く生かすために、活動を選択（限定）して、そこに資源を集中させるべきという考えは、私たちのNPOの存在意義と対立するのです。

私が理事長を務めている「よこはま里山研究所（NORA）」は、都市化とともに減少し荒廃してきた里山を保全し、人と自然との関係を再び結び直そうとしている団体です。高度経済成長期以降、里山は大切にすべき場所としては選ばれず、蔑ろにされました。つまり、社会の「選択と集中」によって失われたとも言えるのです。その里山を守ろうとしているのだから、この言葉に象徴されるマネジメントとは異なる考え方でNPOの運営を図る必要があります。NORAの場合、それは里山をモデルとした運営ということになります。

理想的な里山では、身近な地域の資源が持続的に活用されるとともに、豊かな生物多様性が保全されてきました。だから、NORAでは持続性と多様性が

寄附に係る制度を活用しよう！

どんな法人が認定や指定を受けているの？

認定または仮認定を受けた横浜市所管のNPO法人

- ・神奈川海難救助隊
- ・神奈川子ども未来ファンド
- ・神奈川被害者支援センター
- ・黄金町エリアマネジメントセンター（仮認定）
- ・国際連合世界食糧計画WFP協会
- ・さなぎ達
- ・市民セクターよこはま
- ・スペシャルオリンピックス日本・神奈川
- ・スマイルオブキッズ
- ・多言語社会リソースかながわ
- ・タヤマ実践カレッジ
- ・地球の木
- ・DNA鑑定学会
- ・守の会（仮認定）

横浜市所管の認定（仮認定）NPO法人

検索

横浜市から指定を受けたNPO法人

- ・ろばと野草の会
- ・ばれっとの会
- ・ふらっとステーション・ドリーム
- ・ワーカース・コレクティブ樹
- ・アクションポート横浜

横浜市の指定を受けたNPO法人

検索

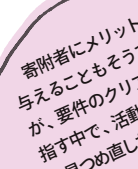
※平成25年1月末時点

※法人名称について、「特定非営利活動法人」は省略

法人が認定や指定を目指したわけは？



数あるNPO法人の中で、寄附先として選んでもらえるよう、適正な運営をしている法人であるとPRしたかった。



寄附者にメリットを与えることもそうですが、要件のクリアを目指し、活動の基礎を見つめ直したかった。



『山仕事』での木の皮はぎ作業

重視されます。持続性とは、日常的な活動を継続させつつ、楽しく無理のない範囲で活動を展開すること。規模の拡大を目ざして、不用意に突っ走るのではなく、活動それ自体を充実させることです。また、多様性とは、さまざまなメンバーの知恵や技を生かし、一人ひとりの意志を大切にしながら、互いに互いを生かし合う関係をつくることです。そして、組織の経済成長よりもまず、かかわる人びとが自分の成長を感じられることが優先されます。

昨年末の政権を交代させた選挙結果は、経済力が強かった日本を取り戻したいという願望を表しているように思えます。しかし、高い経済成長へのシナリオは神話であって、実現しようとするば空回りし、環境の持続性と社会の多様性を損なっていくような気がしてなりません。ただ古き良き日本を取り戻すのではなく、新しい価値観の創造に向かう必要性を感じています。NORA的に言えば、古い里山へ還るのではなく、懐か

マネジメント時代における



月1回の『神奈川野菜を食べる会』

しい里山を将来へ生かすということになるでしょう。

このように、現代社会のあり方を批判的に問い直し、新しい社会に向けて自ら進んで道を切り拓くこと。ここにNPOの存在理由の1つが、確実にあります。近視眼的なマネジメント思考は、今の社会のなかで何とかやりくりすることに向かいやすいです。これを超えて、私たちは現実に対応するだけでなく、希望ある未来をつくれるのでしょうか。



野良仕事

認定NPO法人と
指定NPO法人の
ちがいは？

運営組織や事業活動をととのえて、認定NPO法人や指定NPO法人になると、その寄附者は、税額控除など税制上の優遇措置を受けることができます。寄附者の方に寄附をするメリットをPRすることで、より多くの活動の支援者（寄附者）を集めることが期待できます。

運営組織や事業活動をととのえて、

認定 NPO 法人

NPO法人のうち、その運営組織及び事業活動が適正であって公益の増進に資するものとして、一定の要件を満たし、所轄庁の認定を受けた NPO法人をいいます。

指定 NPO 法人

NPO法人のうち、条例において「住民の福祉の増進に寄与する寄附金を受け入れるNPO法人」として、一定の要件を満たし、個別に指定された NPO法人をいいます。

制度について詳しく知りたい方は・・・

横浜市民活動支援課 Tel 045-227-7966 Fax 045-223-2032
横浜市中区桜木町1丁目1番56みなとみらい21クリーンセンタービル7F
<http://www.city.yokohama.lg.jp/shimin/tishin/ninsyout/>